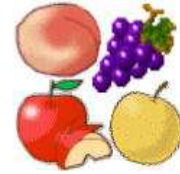




平成25年度 果樹情報 第4号

(平成25年5月2日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (4月下旬：果樹研究所)

4月下旬の平均気温は、5半旬が9.6℃で平年より3.3℃低く、6半旬が12.1℃で平年より1.7℃低い状況でした。この期間の降水量は15.0mmで平年の54%でした。

2 土壌の水分状況 (4月30日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが2.0、深さ40cmが1.7、深さ60cmが1.8で、適湿条件の範囲です。

3 発育状況 (果樹研究所)

- (1) もも「あかつき」の開花始めは、平年より2日早く、満開は3日早い状況でした。
- (2) なし「幸水」の開花始めは、平年より4日早く、満開は平年並みの状況でした。
- (3) りんご「ふじ」の開花始めは、平年より1日早い状況でした。
- (4) おうとう「佐藤錦」の開花始めは、平年より3日早く、満開は1日早い状況でした。
- (5) ぶどう「巨峰」の発芽は、平年より1日早く、展葉は1日遅い状況でした。

表1 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月18日	4月19日	4月28日	4月26日	4月25日	5月2日

注) 平年は1981～2010年の平均値。

表2 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月13日	4月15日	4月24日	4月18日	4月21日	4月29日
	ゆうぞら	4月14日	4月16日	4月24日	4月19日	4月21日	4月28日
なし	幸水	4月19日	4月23日	4月28日	4月27日	4月27日	5月1日
	豊水	4月15日	4月19日	4月25日	4月22日	4月24日	4月29日
りんご	つがる	4月25日	4月26日	5月1日	5月1日	5月1日	5月4日
	ふじ	4月26日	4月27日	5月1日	未	5月1日	5月4日
おうとう	佐藤錦	4月16日	4月19日	4月25日	4月24日	4月25日	4月29日

注) 平年は1981～2010年 (オウトウは1994～2010年) の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成25年4月26日発表)より

今後の気温経過は、1週目(4月27日～5月3日)は平年より低い確率が60%、2週目(5月4日～5月10日)は平年並の確率が40%、3～4週目(5月11日～5月24日)は平年並の確率が40%となっています。

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が低く凍霜害を受けやすいので、気象情報に十分注

意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底しましょう。また、下草が伸びていると園地内が冷えやすくなるので、4月中旬以降はこまめに5 cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげのおそれあり）。空気や土壌が乾燥している場合は、適宜かん水を実施し土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下を助長するため）。

なお、本年は、すでに凍霜害による被害が発生している地域があります。被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保に努めましょう。

(2) 人工受粉

開花期が低温や強風、降水等による湿潤条件、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合があるので、このような条件下に置かれた場合は、人工受粉をより丁寧に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数とします。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用してください。

凍霜害の被害を受けた花から人工受粉用の花粉を採取した場合は、発芽率を確認して利用しましょう。

作物別凍霜害等気象災害防止対策

農業振興課・農林地再生対策室ホームページに掲載していますので、御活用ください。

URL : http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/tousougai_taisaku_h250328.pdf

果樹の現在の生育ステージ

農業振興課・農林地再生対策室ホームページに、農業総合センター（本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校）の生育状況を掲載していますので、参考にしてください。

URL : http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#tokubetsujyouhou

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご黒星病・うどんこ病

黒星病およびうどんこ病に対しては、開花期前後が重点防除時期となるので、落花直後にE B I剤（県病虫害防除指針参照）のいずれかを使用しましょう。なお、開花期間が長引くようであれば、開花直前の散布から2週間以上間隔があかないように心がけ、満開から5日程度を目安に落花直後の散布を実施してください。

うどんこ病の被害葉叢は見つけ次第、せん除し適切に処分しましょう。

イ もも灰星病

花腐れは果実への伝染源となるので、見つけしだい摘除し、適切に処分しましょう。

ウ ももせん孔細菌病

前年秋期の新梢葉における発病葉率が平年より高かったため、春型枝病斑の発生が多いと考えられます。発生初期の密度抑制が重要であるため、5月中の防除を徹底しましょう。

枝病斑は葉や果実への伝染源となるので見つけしだいせん除し適切に処分しましょう。

また、落花直後および落花10日後にせん孔細菌病防除剤を散布しましょう。

エ なし黒星病

県病虫害防除所による腋花芽のりん片調査の結果では、越冬伝染源の密度が高い地域（特に浜通り）があるため、徹底した防除対策が必要です。

開花後の薬剤防除は開花前の防除から散布間隔を10日以上あけずに効果の高いE B I剤（県病虫害防除指針参照）を十分量散布しましょう。なお、開花前後の散布期間が2週間以上あいてしまう場合には、落花後の防除は、受粉が十分に行われた後、落花を待たずに（満開5日後頃）行ってください。落花後の防除以降は1週間間隔で防除を実施しましょう。

また、既に第一次伝染源となる花そう基部病斑が見られる園では見つけ次第必ず除去しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年並みに推移した場合、第1世代の防除適期は、5月2日頃と予測されます。初期発生を抑えるため、落花10日後の防除を徹底しましょう。

イ ハマキムシ類

今後の気温が平年並みに推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月5半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると予想されます。

複合交信かく乱剤は、ハマキムシ類越冬世代成虫の発生前である5月3半旬頃までに設置しましょう。

ウ その他鱗翅目害虫

ナシヒメシクタイの防除適期は、5月1半旬～5月2半旬と予測されます。ミツバチ等を導入している園では、巣箱を回収後、速やかに防除を行いましょ。

エ リンゴハダニ

リンゴハダニのふ化盛期は4月6半旬頃であったと思われます。越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

オ カメムシ類

カメムシ類（クサギカメムシ）の越冬世代成虫による加害は、果実がごく小さいうちから発生する場合があります。特に、山間部や山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行いましょ。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（平成25年5月1日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	—	5月1日	5月18日	5月31日
平年並み	—	5月2日	5月23日	6月6日
2℃低い	—	5月3日	5月29日	6月14日

注) 演算方法は三角法
起算日：3月1日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。